

キャラクター名	プレイヤー名
フィオル・ギリアム	

メインクラス	アコライト	Lv.1:		レベル	3
サポートクラス	ウォーリア	Lv.1:	ウォーリア	性別	女
称号クラス				年齢	18
種族	フィルボル			境遇	義理の親
出自(効果)	傭兵			目標	名誉

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	11	8	13	7	8	13	11
ボーナス	3	2	4	2	2	4	3
クラス修正	1	2	1	1	0	1	0
他修正							
能力値	4	4	5	3	2	5	3

HP	45
MP	47
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ウオーハンマー	至近	-1	7	0	0	0	0	0
左手	ラウンドシールド		0	0	0	3	0	-1	0
頭部	ハット					1			
胴部	ローブ					2			
補助									
装身具	聖印								
能力値			4	0	5	0	5	7	9
スキル									
その他									
総計(右)			3	7					
総計(左)			4	0	5	6	5	6	9
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	2			2	+ 2 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	2			2	+ 2 d
エネミー識別	3			3	+ 2 d
アイテム鑑定	3			3	+ 2 d
魔術判定	3			3	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
MPポーション	
HPポーション	
MPポーション	
MPポーション	

現在重量:	4	所持金:	20	預金・借金:	
最大重量:	11				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ラッキースター	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 作成時に幸運基本値+3								
プロテクション	4	3	DR直後	20m	単体	自動成功	1回	1回1回
効果: 対象が受ける予定のダメージに-[SLd]								
ヒール	★	4	Xジャーアクション	20m	単体	魔術判定		
効果: 対象のHPを「4+2d」回復								
クイックヒール	★	5	イニシアチブプロセス	-	自身	自動成功	1シーン1回	
効果: イニシアチブプロセス時にヒールを使用でき、行動済みにならない								
アームズマスタリー: 打撃	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 打撃武器を使用した命中判定+1D								
オートガード	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 物防に+SL×2、魔防に+SLする								
ハンマーフォージ	2	5	マイナーアクション	-	自身	自動成功		
効果: 打撃武器攻撃時、+[SL×3]。当たればノックバック(2)を与える。								
キュア	1	5	Xジャーアクション		単体	魔術判定		
効果: バッドステータス回復。クリティカルコスト0								
アフェクション	★	-	ダメージロール直後		単体	自動成功	1シナリオ	
効果: 対象が受けるダメージを0にする								
レイズ	★	10	Xジャーアクション		単体	魔術判定		
効果: 戦闘不能を回復。2D点HP回復								
ファーストエイド	1		Xジャーアクション	至近	単体	器用		
効果: 難易度10の器用判定を行い戦闘不能を回復								
デストロイヤー	1		パッシヴ		自身			
効果: オブジェクト攻撃時判定+2 破壊不可オブジェクトは不可								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

ドゥアンの傭兵である養父ギリアムは、ある日、村を焼き払った魔物の討伐を依頼される。無事魔物を討伐し、帰還する途中、焼き払われた村の一角で、既に事切れた女の胸に守られるように抱かれる幼い赤子を見つける。ギリアムは母を想い泣く赤子を気の毒に想い、これも一つの出会いとしてその赤子を連れ帰り、フィオルと名付け育てることにした。10余年の月日が立ち、フィオルはギリアムの養子として逞しく育っていた。子育てには不器用だったギリアムに育てられたことや母を知らないことにより、フィオルは男勝りで、近所の悪ガキと一緒に野山を駆け回る生活をしていたのだが、月日が経つにつれて周りの友達との成長の差を目の当たりにし、フィオルは人知れず孤独感を味わってしまう。ある日、養父であるギリアムから本当の父親ではない事や種族の違い、本当の母の最後を知らされ、わけもわからず家を飛び出してしまったフィオル。あても無く夜の森を彷徨っていたが、突如現れた巨大なモンスターに襲われてしまう。為す術もなく逃げ惑い、それでも逃げ切れずに崖に追い詰められたフィオル。自分の愚かさ、養父であっても自分を愛し育ててくれたギリアムに対しての申し訳なさや感謝が走馬灯の様に駆け巡り、振り下ろされる凶刃から目を背けた。・・・覚悟していた痛みはいつまでもやってこなかった。恐る恐る目を開くと、そこには恐ろしい魔物の姿ではなく、いつも見上げていた養父、ギリアムの逞しい背があった。着の身着のまま、着流しのようなゴロを、木の葉や泥で更に汚し、十字に構えた拳で魔物の丸太のような腕を受け止めている。「あ・・・ああ・・・」言葉にならない声を上げ、安堵の涙を流すフィオルを背中越しにみやり、一息付くと、普段寡黙な養父は吠えた。「俺の娘に手を出すな」と。魔物の腕をつかみ、背負い投げ、地面に叩きつけた。くぐもった悲鳴が魔物から上がり、すかさず養父は懐に忍ばせた小刀を倒れた魔物の胸に突き立てる。魔物から距離を取り、油断なく構えるが、魔物はしばらく激しく暴れた後ピクリとも動かなくなった。フィオルがほっとしたのもつかの間、ギリアムは顔を抑え、その場に片膝をついてしまう。魔物が暴れた際その爪により、ギリアムは片目に深い傷を負ってしまったのだ。フィオルはギリアムに縋り付き、「ごめんなさい」と泣きじゃくった。それにギリアムは穏やかに微笑み、大きな手のひらで包み込むようにフィオルの頭を撫で、怒るようなことはせずに「無事で良かった」とだけつぶやいた。